

私は時々、World Watch Monitor というサイトを見ていますが、2016 年のお正月早々、パキスタンのキリスト者たちが三回襲われるという事件が報道されました。パキスタンと言えば、マララ・ユスフザイさんを思い出します。女子教育に対してもあれだけの反感を持つ人々がいるのを残念に感じているところです。パキスタンは、人口 1 億 8000 万の 1.3%、234 万人ほどがキリスト者ですが、非常に大きな反感、憎悪が向けられ、危険な状況だという報道がなされています。



最初の事件は 1 月 3 日の日曜日に Pasrur の近くの Bashir Masih 村の小さな集会所で礼拝中に一人の暴漢が入ってきて、暴れまわり、礼拝を妨害したのです。以前に教会があった所は、その教会員の兄弟が冒瀆罪で拘束された時以来、地元民が奪っていて、教会員の数も減少していました。この暴漢は逆に教会員から暴行を受けたとし、彼を支援する地元民が武器をもって脅迫的に迫ってきて、解決はなされていません。

続いて、1 月 7 日にはラホール郊外の Baath 村の Apostolic Church 教会(左)が放火されるという事件が起きました。その 5 時間後に 80 キロ離れた、インドとの国境近くの Sandha Phatak 村の Victory Church 教会にも侵入者が入り、聖書や賛美歌に放火したのです。犯人は捕まりましたが、警察は精神異常者として扱って、罪を問わないそうです。

World Watch Monitor は、このような迫害の背景に、パキスタンではキリスト者から土地、財産を奪うために「脅迫作戦」がよく使われているといいます。これを達成するために一般的な反キリスト教的感情が用いられています。パキスタンは 97%がモスリムですが、そのうち 16%の人々しか、キリスト教に肯定的ではないという調査もあります。公立学校の大多数の教師は宗教的少数者への怒りの重要な理由として「預言者ムハンマドへの冒瀆」を例に挙げ、さらに、テロによる「世界戦争でのモスリムの殺害」と「飲酒」を例に挙げています。

また、ニューヨークタイムズで、Akbar Ahmed 教授は合衆国に対する全体的な怒りが、多数の人々が、クリスチャンを、彼らがアメリカとかかわっているから、身代わりとしてターゲットにするようになったと言っています。キリスト者や、礼拝堂への襲撃は 2012 年のニジェールでの聖パウロ・ルター派教会に対する襲撃から始まりました。それはアメリカの反イスラム的な映画 “Innocence of Muslims” (モスリムの無知)の公開に伴って、抗議が暴徒化して起きました。次第に拡大、増加しています。

World Watch Monitor の統計では 2015 年の 1 年間で、世界 45 ヶ国で(と言ってもアフリカ、中東、アジアが大多数)、宗教的理由で、7106 人のキリスト者が殺害されました。教会への攻撃(襲撃、損壊、破壊、爆撃、略奪、焼き討ち、閉鎖、没収)は 2425 件が報告されています。このうち、中国が 1500 件と 5 分の 3 を占めています。もちろん、北朝鮮はデータを得ることができませんが、キリスト教への迫害はかなりあるとされています。

1 月 20 日にはタリバンによるテロが発生し、バチャ・カーン大学が襲われ死者 21 人、負傷者 30 人以上を出しました。ガンジーと共に独立運動を闘ったバチャ・カーン(1890-1988)に因んで設立された大学です。バチャ・カーンは敬虔なモスリムで、非暴力による平和主義に立った政治家だったそうです。シャリフ首相は「慈悲は見せない、テロを一掃する」と声明を出しました。

私はイスラム世界に迫害を受けつつ多数のキリスト者が暮らしていることをあまりにも知りませんでした。モスリム同士でも暴力が吹き荒れています。モスリムの人々との間に、理解と和解の道を得ることが絶対に必要です。個人では難しくても、教会同士が、何とか連帯する道を持つことはできないのでしょうか。